

支援教育グループ研究会

グループ員：門脇 陽一 (伊丹特別支援学校) 森脇 菜穂 (桜台小学校)
宿南 由紀 (稲野幼稚園) 桑原 友香 (天神川小学校)
廣江 千夏 (稲野小学校) 本田 麻 (瑞穂小学校)
櫻井 美也子 (稲野小学校) 小林 純子 (瑞穂小学校)
細田 愛夏 (桜台小学校) 吉久 奈保美 (鈴原小学校)
有吉 佑加莉 (桜台小学校) 中山 貴嗣 (鈴原小学校)
永柄 千琴 (桜台小学校) 岩本 とよ子 (鴻池小学校)
担当指導主事：時村 孝完

キーワード：特別支援教育 合理的配慮 行動上の問題

1 研究テーマ

「応用行動分析を用いた特別支援教育の技法について」

2 研究内容

(1) 子どもの行動上の問題へのアセスメントと分析及び指導の工夫

子どもの問題行動について、仮想事例を用いて分析をした。ワークでは応用行動分析学の機能分析という手法を用いた。また、学級担任が指導をしながら実施できる記録方法や声掛け・ヒントの出し方の工夫について実践を交流して研修した。

(2) 合理的配慮

特別支援学級や特別支援学校で普段行っている個別的サポートと合理的配慮、心理的な配慮の違いについて事例を挙げて研修した。

(注1) 清水貞夫・西村修一「合理的配慮とは何か？通常教育と特別支援教育の課題」クリエイツかもがわ、2016

3 成果と課題

(1) 成果

① 子どもの行動上の問題へのアセスメントと分析及び指導の工夫では、自分の担当するクラスで取った記録を元に、支援の工夫をすることができた。研修会では参加者と意見交流することで、子どもの暴言や他害行動、登校しぶりなどの行動背景を参加者で話し合い、よりよい支援方法を研修することができた。

② 合理的配慮について、定義や法的な位置づけを書籍から学んだ。特別支援学校や特別支援学級における合理的配慮と個別的サポートとの違いを明確にすることができた。また、教員の気づきによる合理的配慮と本人・保護者の申請があった際の対応方法について学ぶことができた。

(2) 課題

① 行動上の問題のアセスメントや分析の手法を周りの同僚たちと協力して実践していくことが今後の課題である。

② 権利擁護としての合理的配慮の要請が本人・保護者からあげられた場合、学校園が本人・保護者どのようにして合意形成を図っていくのか、学校園でどのように理解啓発を促していくのが今後の課題であると考えている。